

茨城大学学報

第261号

平成17年6月～平成17年7月



水戸キャンパス

INDEX

- ◆人文学部で記念フォーラム開催
- ◆韓国仁済大學校と交流協定を締結
- ◆茨城大学名誉教授称号授与式
- ◆個人情報保護に関する説明会を開催
- ◆茨城県教育委員会との連絡協議会開催
- ◆人文学部で地域連携シンポジウムを開催
- ◆工学部で初の学生国際会議開催
- ◆オープンキャンパス開催
- ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより
6月号・7月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

人文学部で記念フォーラム開催

人文学部では、6月12日(日)大洗町の包括協定が今年4月に締結されたのを記念するフォーラム「観光立町を目指したまちづくり 大洗の魅力とは何か、これをどのように発信するか」を、大洗文化センターで100名以上の参加者を得て開催しました。

鎌田人文学部教授の総合司会のもと、田中人文学部長・小谷大洗町町長の挨拶に続いて、帯刀人文学部教授による基調講演が行われ、観光立町を目指す大洗町がいかにして「交流人口の拡大」を図るのかについて具体的な提言がなされました。

さらに斎藤人文学部教授の司会でパネルディスカッションが持たれ、大洗町からは、鈴木良成(お弁当の万年屋社長)・大山吐志(大洗海の大学理事)・石井盛志(ホテル金波楼支配人)・高橋正彦(大洗町役場)の4氏がそれぞれの立場から提言をおこないました。人文学部からは、葛西紘子氏(現在は理工学研究科)が大洗町を学生の立場で調査した成果を披露し、松井人文学部教授が広告会社に勤務していた経験を生かした見識が示されました。

今後の大学と地域との連携のありかたについても積極的な意見交換がなされ、大洗町との包括協定を実のあるものにしていく第一歩となりました。



帯刀人文学部教授による基調講演

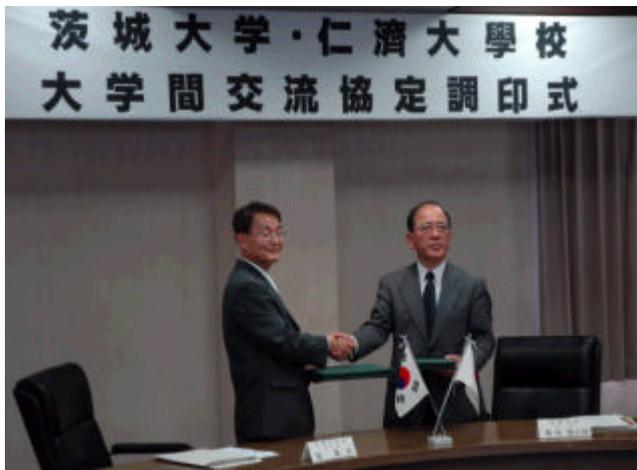
韓国仁濟大學校と交流協定を締結

本学では、国際交流推進の一環として、韓国の仁濟大學校と交流協定の締結を行いました。

仁濟大學校の沿革は、1979年3月に仁濟医科大学として開校、1989年3月に総合大学仁濟大學校に昇格、2000年9月に中央日報全国大学総合評価優秀大学に選定され、また、2005年度学部卒業生の就職率全国三位になるなど、韓国屈指の大学です。同大学は、金海、釜山にキャンパスを置き、医学・医生命工学・人文社会科学・自然科学・工学・デザイン学部の6学部をもとに、大学院が設置されており、さらに5附属病院、20研究所を有し、在籍学生数は、学部生が約1万4千人、大学院生が約1,600人です。

調印式は、6月21日(火)に茨城大学で行われ、来日した仁濟大學校の金東沃副総長以下4名、本学から菊池学長、村中副学長、丸山事務局長など関係者が同席し、協定書に調印するとともに、両大学の現状等について意見交換を行いました。

これまでも仁濟大學校とは、研究者同士の交流が行われていましたが、今回の協定締結により、一層両大学間の連携が強化され、留学、短期研修、共同研究など活発な学術交流の発展が期待されます。



握手を交わす菊池学長(右)、
金副総長(左)

調印式に出席した両大学関係者



茨城大学名誉教授称号授与式

本学では、平成17年5月25日(水)開催の教育研究評議会において、平成17年度茨城大学名誉教授として、以下の先生方11名が決定され6月23日(木)事務局会議室に於いて関係者ご列席のもと、名誉教授称号授与式が執り行われました。

元官職名	氏名	元官職名	氏名
人文学部 教授	こいど みつ ひこ 小井戸 光彦	理学部 教授	いし づか とし ひさ 石塚 俊久
人文学部 教授	あめ みや しょう いち 雨宮 昭一	理学部 教授	おの せ ひろ し 小野瀬 ひろし
教育学部 教授	まつ だ まさ み 松田 正巳	工学部 教授	みや た たけ お 宮田 武雄
教育学部 教授	かじ わら せい ごう 梶原 征剛	工学部 教授	いし ぐろ みさこ 石黒 美佐子
教育学部 教授	あ だち きみ こ 安達 喜美子	工学部 教授	ほし た か し 星 たくし
理学部 教授	なか の よし はる 仲野 義晴		



授与式であいさつする菊池学長

個人情報保護に関する説明会を開催

本学では、6月30日（木）、「国立大学法人茨城大学個人情報の保護及び管理規則」が4月から施行されたことに伴い、保有個人情報の取扱いに従事する教職員を対象に説明会を開催し、個人情報保護管理者及び担当者の教職員約100名が参加しました。

説明会は、個人情報総括保護管理者の丸山彰理事（事務局長）から個人情報保護管理の重要性等について説明があり、引き続き、人文学部飯塚和之教授が「国立大学法人における個人情報保護の課題」として、個人情報保護法の趣旨・目的 法令と本学規則を比較しての解釈 本学における検討課題等について具体的例を示しながら説明があり、大学のプライバシーポリシーや学生への個人情報保護方針の公表等、大学が求められる具体的対策が示され、個人情報保護の必要性をあらためて認識することになりました。

また、質疑応答では、参加者から各部署等が保有する個人情報の取扱いに関して、予定時間を超えて活発な質疑があり、関心の高さがうかがわれました。



人文学部飯塚和之教授の説明に熱心に聞き入る参加者

茨城県教育委員会との連絡協議会開催

教育学部では、7月8日（金）「平成17年度茨城県教育委員会と茨城大学教育学部との連絡協議会」を同大学会館において開催しました。

同協議会は、地域の教育及び教員養成に関わる諸問題並びに教員の資質向上等を図ることを目的として、平成12年度に設置されたものです。

教育委員会側から川俣教育長、教育次長、各課長等13名、大学側は教育学部長、学部長補佐、各種委員会委員長など21名が出席し、指導の改善につながる評価の在り方についての共同研究について、地学及び家政科の教員採用について等に活発な意見交換が行われ、相互の連携協力について一層の推進を図り、今後、同協議会を更に充実させることになりました。



活発な意見交換が行われた連絡協議会

人文学部で地域連携シンポジウムを開催

人文学部では、7月9日（土）、今年4月人文学部と常陸大宮市の間で地域連携に関する包括協定が結ばれたのをうけ、常陸大宮市緒川総合センターで、シンポジウム「新生常陸大宮市のこれからのまちづくり」を開催しました。

鎌田彰仁人文学部教授が総合司会をつとめ、まず田中重博人文学部長と矢数浩常陸大宮市長（代理内田助役）から開催の挨拶、その後、帯刀治人文学部教授がコーディネイターとなって、パネリストが発言、討論を行いました。

パネリスト市野沢弘（茨城みどり農業協同組合代表理事理事長）、平塚修（常陸大宮市森林組合代表理事理事長）、高岡文男（大宮町商工会会長）、阿久津守（水戸北部中核工業団地連絡協議会会長）、鹿島力男（山方町観光協会会長）、岡崎怜子（常陸大宮市教育委員会委員長職務代理者）、櫻村恭子（陶芸家）の各氏がそれぞれの立場から「新市の誕生をどう受け止めたか」「その可能性と課題」「これからのまちづくりにどう取り組むか」を語り、五町村の合併をいかして各事業をさらに展開して行くとともに、相互の協力や連携の体制をつくっていききたいこと、住民自身が同市のよさを再発見し、各地から訪れる人々にも味わってもらいたいことなどが発言されて、200名近い来場者の拍手を呼びました。

また、地域経済論が専門の斎藤典生人文学部教授は、大分県安心院町のグリーンツーリズムの取り組みなど多くの事例を挙げながら、常陸大宮市にしかない独自の試みが求められること、交流人口の増加を目指し、積極的に情報発信する必要があることなどを提言されました。西野由希子人文学部助教授は学部教員による市民大学講座の開設など地域連携委員会が同市で準備している活動を紹介しました。最後に、帯刀教授が、来年以降もシンポジウムを開催し、議論を重ねながら新市のまちづくりに人文学部が協力していききたい、と発言してシンポジウムを締めくくりました。



常陸大宮市で開かれたシンポジウムのようす

工学部で初の学生国際会議開催

平成17年7月13日～15日の3日間、工学部日立キャンパスにて、平成16年度茨城大学教育・研究支援経費のサポートのもと、国際的感覚の優れた若手研究者育成の一環として学生国際学会「The First International Student Conference at Ibaraki University」が開催されました。

この学会は、“学生の、学生による、学生のための、国際学会”という言葉をもットーに、茨城大学大学院理工学研究科の大学院生（留学生2名、日本人学生3名）で構成された学生実行委員会が中心となり、自ら企画し、海外を含む合計127の大学に参加を呼びかけ、開催したものです。教員側の運営母体は、茨城大学ライフサポートサイエンス研究会です。同研究会は、ライフサポート科学分野を基盤とし、人々の生活の質（QOL）の向上のための新しい研究分野の創出、若手研究者の輩出、世界的研究拠点の形成を行っています。

学会では、本学学生をはじめ韓国、中国、オーストラリアなど5カ国の学生たちが英語での研究発表、英語による活発な質疑応答も行われ、学会後、懇親会も開催され国際的なコミュニケーションの場となりました。

実行委員の学生からは、「国際学会の企画、運営を通して世界の壁を取り払うことができた」、「今回経験できたことは研究者として歩もうとする自分の大きな糧になる」などの感想を聞くことができ、大学院生のコミュニケーション能力の向上、国際感覚の滋養によって大変有意義な機会となり、また、今後の継続的開催が望まれます。



様々な国の学生による研究発表

オープンキャンパス開催

本学では、7月23日（土）、第20回公開説明会（オープンキャンパス）が水戸キャンパスで開催され、過去最多の4千人余りの高校生・保護者の参加がありました。

今年は、学部紹介が、講堂等において午前及び午後に行われ、また、公開授業を45分単位とし、四つの時間帯に分け、複数学部の授業を聴講を可能としました。公開授業では、専門科目だけでなく今年度から導入された総合英語プログラムの授業を行うなどより高校生に親しみやすい内容となりました。

また、初の試みとして、大学会館において、保護者向けに入試・大学生活についての説明会が2回行われました。さらに、インフォメーションコーナーでは、入試相談、学生生活相談、ビデオ紹介、在学生との大学生活の話聞くコーナーなど、終日大勢の高校生で賑わいました。



説明会資料を受け取る高校生の皆さん（大学正門前）

- 「NHK県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 6月号 -

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「わいわいデジタル便り」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成17年6月9日(木)・・・茨城大学放送研究会 :大学生の日常を描いたドラマ

「君がいた季節」の紹介 (教育学部3年次若松さん)

今回、大学生の日常を短編ドラマにしてみることにした。ドラマ性を持たせるため、最近流行の純愛(「冬のソナタ」など)で悲恋の物語にした。脚本および出演者などを大学生がすべて行うことでリアリティのあるドラマを目指した。



写真の中央が小田切アナウンサー
後ろが
放送研究会の皆さんです

NHK水戸放送局公開スタジオにて :左から

久保さん、桜居さん、長谷川くん、若松さん、立島さん、岡本さん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

- 「NHK県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 7月号 -

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「わいわいデジタル便り」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成17年7月7日(木)・・・茨城大学大学院友田研究室 :たたら製鉄を再現

(理工学研究科博士前期課程応用粒子線科学専攻2年次池田さん)

古代から伝わる製鉄方法である「たたら製鉄」の再現を行いました。この方法は、古くは古墳時代から伝わる製鉄法で、炭を燃やしてその熱で砂鉄を溶かして、鉄の塊を作り出すという方法です。実際に溶けている鉄など操業の映像を見てもらうことで「ものを作り出す」という楽しさと興味を持つきっかけになればと思います。

詳しくは、ここを <http://www.mse.ibaraki.ac.jp/event/20050707.html>



写真の中央が小田切アナウンサー
右の3名が出演者の
池田くん、小島さん
諸岡くんです

NHK水戸放送局公開スタジオにて :左から

前列 :小野さん、橋本さん、小田切アナ、池田くん、小島さん

後列 :横田先生、鈴木先生、久保田くん、諸岡くん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。